

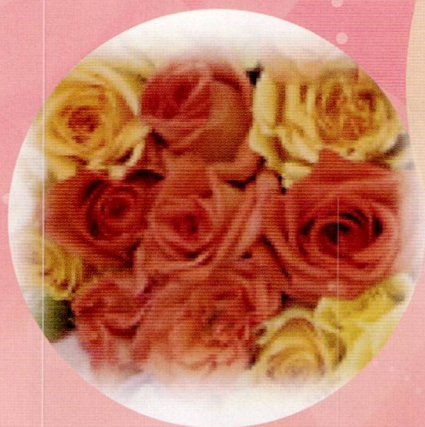
第38回

70周年記念



RKB 女声合唱団演奏会

RKB female Chorus Concert



70th

2024 10 / 6 sun.

開演 14:00

SAWARAPIA 大ホール



主催：RKB女声合唱団

後援：RKB毎日放送／福岡県合唱連盟／福岡音楽団体連絡会

ごあいさつ

本日はお忙しい中、RKB女声合唱団 70周年記念演奏会にご来場下さいまして、誠に有難うございます。

昭和29年にRKB毎日放送の准専属合唱団として結成され、それから70年続けることができたのは、団員の熱意はもちろんの事、それを理解し応援して下さるご家族、永年にわたりバックアップしていただいたRKB毎日放送局、そして演奏会を楽しみにご来場くださっているお客様方のお陰とっております。

今回の演奏会には、前回の演奏会後に入団した13名の団員のうち11名が出演しています。どこの合唱団も団員不足で困っているとの話を聞いていますが、RKB女声合唱団はありがたい事に前回の演奏会より団員が増え、本当に嬉しく思っています。

今回は、童謡やポップス等、皆様をご存知の曲を多数演奏いたします。どうぞ最後までお楽しみ下さいますよう、団員一同お願い申し上げます。

RKB女声合唱団 代表 内野美保子
団員一同



(2024年6月合唱祭にて)



ごあいさつ



RKB毎日放送 代表取締役社長 佐藤 泉

RKB女声合唱団の70周年記念演奏会の開催、おめでとうございます。
RKB女声合唱団は1954年にRKB毎日放送の准専属合唱団として、メンバー15人でスタートし、単独での演奏会は今回で38回を重ねてこられました。
ベテランの息の長い活動に新しいメンバーが加わり、指揮の久世安俊氏のご指導、ピアノの榎元圭氏のお力もいただきながら地域文化に貢献を続けてこられた姿には頭の下がる思いです。
演奏会は心に沁みる名曲から、一緒に口ずさみたくなるポップな曲まで幅広く披露されるとのこと。ぜひ、ごゆっくりと心に響く歌声をお楽しみください。

ごあいさつ

「70周年を迎えて…」

全日本合唱連盟九州支部
RKB女声合唱団

顧問 香月 ハルカ



本日は70周年記念 RKB女声合唱団38回演奏会にご来場いただきまして、ありがとうございます。70年の歩みを一気に振り返ることは容易ではありませんが、ラジオの放送だけだった時代に誕生した民放の合唱団が現代まで活動を継続できたことは、とても貴重なこと…と感慨を深くしています。地域文化の発展を目指して、永年にわたり育て下さったRKB毎日放送に深甚の感謝を捧げます。又、いつも身近で温かくご支援下さった合唱ファンの皆様に心からお礼を申し上げます。

誕生は昭和29年、初代指揮者 米倉美枝先生の週2回の練習は、ラジオのレギュラー番組の録音に向け、みっちりとしたレッスンでしたが、殆ど20代の15、6名の団員は音楽の素養もあり譜読みも速いメンバーばかりで、とても充実した時間でした。

昭和33年、テレビ放送が始まり専属メンバーが結成されて活動の幅が広がりました。

福岡から中央楽壇にデビューされた故・石丸寛先生は様々な外国曲を編曲して度々提供して下さいましたが、20周年記念の演奏会では、米国のマーチを女声合唱と3団体の吹奏楽団で立体的に演奏するという画期的な演出で開催して大きな話題となりました。又、同じく福岡から指揮者デビューを果たされた故・荒谷俊治先生は、米倉先生亡き後の合唱団再興に向け熱いパワーをもってご指導くださり、25周年の演奏会を盛会裡に開く事が出来ました。

それからは常任指揮をお務め下さった歴代の先生方のご指導をいただきながら多様なジャンルの曲に取り組んでまいりましたが、常に放送合唱団としてレベルアップをはかるために、度々、合唱音楽界でご活躍の指揮者を客演として迎え、より優れた音楽表現を目指して精進してまいりました。

改めて70年を振り返り貴重な足跡として浮かぶのは、昭和37、38年と連続して文部省主催ラジオ合唱曲部門の芸術祭に参加、連続して奨励賞を受賞したことです。なかでも阪田寛夫作詞、中田喜直作曲「美しい訣れの朝」は、女声合唱曲の傑作として広く歌い継がれ、初演した私達にとっても忘れ難い名曲となりました。2000年、中田先生が他界された折には演奏会を開催、遺された数々の名曲を歌って感謝を捧げました。

もっと近年になってからのハイライトは、昭和63年から平成5年にかけて5年間、毎週土曜日15分間のテレビ番組「RKBコーラス仲間」の放送です。私達は毎週レギュラーで出演し地元の合唱団をゲストに迎えて合唱で交流する番組でしたが、お茶の間の皆さんに好評で5年間も放映出来たことは私達の大切な記念碑となりました。

さまざまな活動を通して合唱音楽を発信してまいりましたが、これからも急速に進化し続ける社会にあって、心の安らぎ、生きていくことへの励ましになる様なハーモニーを紡ぎながら歌い続けてまいりたいと存じます。

皆さま方のより一層のご声援をよろしくお願い申し上げます。

Profile

指揮 久世 安俊



©studio-mickey.com

福岡教育大学総合文化科学課程芸術コース音楽専攻卒業。同大学院教育研究科音楽教育専攻修了。北里由布子、三浦國彦、平和孝嗣、柴山昌宣の各氏に師事。これまでに、西日本オペラ協会公演のオペラ「フィガロの結婚」、「コシ・ファン・トゥッテ」、「愛の妙薬」、「秘密の結婚」、「ラ・ボエーム」、「カルメン」、「魔笛」、「ヘンゼルとグレーテル」、「バ스티アンとバスティエンス」、「カプレーティとモンテッキ」等に出演。アクロス福岡主催による、こどものためのオペラにも出演。また、バッハの受難曲やカンタータ、ヘンデル、モーツァルト、フォーレなど教会音楽のソリストも務める他、合唱指揮者としても活躍。現在、近畿大学九州短期大学教授。(一社)西日本オペラ協会コンセル・ピエール理事長。RKB女声合唱団指揮者。福岡ユージェンツァイト音楽監督。NCBコールアカデミア、メール・クワイヤ筑紫、女声合唱団うめの実の指揮者も務める。福岡ゾリステン会員。

ピアノ 榎元 圭



福岡教育大学大学院修了。ピアノを和田梯氏、声楽を原尚志氏、和声を内山信氏に師事。

室内楽の分野では、ヴァイオリニスト・ヤンネ館野氏を始め、NHK 交響楽団特別コンサートマスター篠崎史紀氏、同首席クラリネット奏者伊藤圭氏らと共に演奏する他、ピアノ協奏曲のソリストとしては、九州交響楽団を始めとするオーケストラと、ラフマニノフ、ガーシュウィン等の作品を演奏。

現在は九州を中心に、ピアノソロや室内楽、ドイツリート、合唱のピアニストなど、幅広い分野で活動すると共に、レッスンやコンクール審査、室内楽セミナーの講師など、後進の育成にも当たっている。

西日本オペラ協会、ドイツ歌曲研究会「福岡ゾリステン」、JR九州クルーズトレイン「ななつ星 in 九州」各ピアニスト。また2016年~2018年まで、九州交響楽団「目からウロコのクラシック講座」にてピアニストを務める。

第6回秋吉台音楽コンクール室内楽部門入賞。

福岡教育大学教育学部教員養成実地指導講師。宗像ユリックス「にっこり文化講座」講師。

guest フルート 村上 祐斗



福岡室内楽同好会所属。大分県出身。

中学の吹奏楽部で音楽活動を始めフルートに魅了される。

高校、大学でも吹奏楽部に所属し、大学では全国吹奏楽コンクールに出場し金賞を受賞。

卒業後も音楽活動を続け、オーケストラ、ソロ活動を精力的に行っている。これまでに 久知良明美先生、脇坂緑先生に師事し、その指導のもとで技術を磨いている。

Program

I. 女声合唱とピアノのための 近代日本名歌抄

信長 貴富 編曲

1. あの町この町 野口 雨情 作詞 中山 晋平 作曲
2. 宵待草 竹久 夢二 作詞 多 忠亮 作曲
3. ゴンドラの唄 吉井 勇 作詞 中山 晋平 作曲
4. 青い眼の人形 野口 雨情 作詞 本居 長世 作曲
5. 影を慕いて 古賀 政男 作詞・作曲
6. カチューシャの唄 島村 抱月・相馬 御風 作詞 中山 晋平 作曲

ピアノ 独奏

榎元 圭

ユーモレスク op.101-7

ドヴォルザーク作曲

献呈 S.566

シューマン＝リスト作曲

II. 大中恩 生誕100年 記念ステージ

大中 恩 作曲

1. いぬのおまわりさん 大中恩女声合唱曲集 佐藤 義美 作詩
「たのしいこどものうた」
2. ドロップスのうた より まど みちお 作詩
3. サっちゃん 阪田 寛夫 作詩
4. おとなマーチ 阪田 寛夫 作詩
5. こんな夜には 女声合唱曲「愛ゆえに」 土田 藍 作詩
より
6. 翔ける 土田 藍 作詩
7. あなたも 土田 藍 作詩

Program

Ⅲ. 木下 牧子作品集

木下 牧子 作曲

- | | | |
|-------------|--------------------------|----------|
| 1. うぐいす | 抒情小曲集
「月の角笛」より | 武鹿 悦子 詩 |
| 2. 夕顔 | | 金子 みすゞ 詩 |
| 3. かぜとかざぐるま | | 岸田 衿子 詩 |
| 4. 月の角笛 | | 新美 南吉 詩 |
| 5. 白いもの | | 北原 白秋 詩 |
| 6. 曇り日なら | 女声合唱とピアノのための
「花のかず」より | 岸田 衿子 詩 |
| 7. 竹とんぼに | | 岸田 衿子 詩 |

休憩 (15分)

バリトン 独唱

久世 安俊

- 私は町の何でも屋 オペラ「セヴィリアの理髪師」より ロッシーニ 作曲
銀の龍の背に乗って 中島 みゆき 作詞・作曲

Ⅳ. みゆき & ユーミン ア・ラ・カルト

- | | | |
|--------------|-------------------------------------|---------------------------|
| 1. 鶴鶴 (せきれい) | 女声合唱とピアノのための
みゆき歌 女の愛と生涯 より | 中島 みゆき 作詞 作曲
源田 俊一郎 編曲 |
| 2. ほうせんか | | 中島 みゆき 作詞 作曲
源田 俊一郎 編曲 |
| 3. 糸 | | 中島 みゆき 作詞 作曲
源田 俊一郎 編曲 |
| 4. 中央フリーウェイ | 女声合唱のための ポッパーズクラ
ブファミ 松下耕編曲 より | 荒井 由美 作詞 作曲
× 松下 耕 編曲 |
| 5. 瞳を閉じて | 女声合唱・フルート・ピアノのため
の「ユーミン・オールディーズ」 | 荒井 由美 作詞 作曲
信長 貴富 編曲 |
| 6. 卒業写真 | より | 荒井 由美 作詞 作曲
信長 貴富 編曲 |

I. 信長 貴富編曲：女声合唱とピアノのための「近代日本名歌抄」

取り上げられた6曲、「あの町この町（1925年）」、「宵待草（1917年）」、「ゴンドラの唄（1915年）」、「青い眼の人形（1921年）」、「影を慕いて（1932年）」、「カチューシャの唄（1914年）」は大正から昭和初期にかけての歌謡曲の源流となる曲ばかりです。

歌謡曲・流行歌とはいうものの、言葉と旋律の融合から紡ぎ出される美しさは、芸術性の高さを感じずには居られません。この芸術性をさらに輝かせる編曲、特に華やかなピアノ部分は信長貴富さんのパッションが溢れています。ただただお見事です。

ピアノ独奏 榎元 圭

ユーモレスク ドヴォルザーク 作曲

言わずと知れた名曲です。ヴァイオリンなどの演奏で耳にすることが多い印象ですが、元はピアノ独奏のための小品です。「家路」などにも代表される、ドヴォルザークの特徴である民謡風の音楽は、いつ聴いてもどこか懐かしさを呼び起こします。

献呈 シューマン=リスト 作曲

シューマンのドイツリート(ドイツ歌曲)の傑作を、後に「ピアノの魔術師」リストがピアノ独奏用に編曲したものです。唯一無二の美しい旋律と、ピアノの煌びやかな装飾が映える一曲です。

(この項、文責・榎元 圭)

II, 大中 恩 生誕100年記念ステージ

今年で生誕100年を迎えた大中恩さん。生涯を通して2000曲以上の作品を残されています。うち97%が歌作品（合唱曲1500曲以上、こどものうたは300曲以上）です。*

本日は、大中恩さんといえばこどもの歌ですね。『たのしいこどものうた』から、代表作「いぬのおまわりさん」「サッチャン」ほか。また作曲家自身が“土田藍”というペンネームで作詩をした女声合唱組曲『愛ゆえに』から選曲しました。

純粋な子ども心と愛し合う二人の大人心、心のどうよう（童謡・動揺）をお聴きください。

*：HP「大中恩音楽記念館」より

III. 木下 牧子作品集

合唱界で名前が挙がらないことはないでしょう。日本を代表する作曲家の木下牧子さん。本日は抒情小曲集『月の角笛』と、女声合唱とピアノのための『花のかず』よりピックアップしました。シンプルで、しかも心に響く「歌」をコンセプトとして作曲されたそうです。どれも二部合唱ということもあり、多くの合唱団に歌われている作品だと思いますが、指揮をする立場としては、とても難しさを感じています。それは何か？

木下さんは、詩から湧き出る旋律の力が強い作品＝「歌曲的な作品」は二部合唱にされることが多いそうです。つまり自然な発声で表情豊かに、美しい日本語を届けることが求められているわけです。…なるほど。さて、どこまで流麗に表現できますやら。

バリトン 独唱 久世 安俊

フィガロのアリア「私は町の何でも屋」 ロッシーニ〈セヴィリアの理髪師〉より
 洒脱なストーリーと軽快な声の妙技で人気の作品です。町の何でも屋を称する理髪師の
 フィガロが、アルマヴィーヴァ伯爵と箱入り娘ロジーナの恋を成就させる痛快な恋物語です。
 ロジーナを思うアルマヴィーヴァ伯爵の前に現れ、「私は町の何でも屋。ああ、最高のフィガロ
 ! あなたは幸運でいっぱいさ」と自身の腕の良さをまくしたてるアリアです。

中島みゆき「銀の龍の背に乗って」

ドラマ『Dr.コトー診療所』の主題歌として書き下ろされました。医療ミスをした過去を
 持つ五島が、赴任した離島の人々との関わり合いを通して命の尊さを描いています。「銀の龍」
 という言葉は、船で島へ渡る際に海に残る航跡の白波のことを表現しています。

IV. みゆき & ユーミン ア・ラ・カルト

中島みゆきと荒井由実（松任谷由実・ユーミン）、この2大シンガーソングライターの凄さは
 何なのでしょう。個人的には、どの世代にも記憶に残る名曲を生み出し、多くのミュージシャン
 に楽曲提供、またカバーがされているというところでしょう。つまりはインスパイアに溢れた
 両者だからこそと考えます。

× 「鶴鴿」：2011年に発売された38作目のアルバム『荒野より』に収められた曲です。スズメより
 少し大型の鳥です。山、川、空、国、人の心、鶴鴿の鳴き声。作られた時期からも、どう聴き、
 何を想われるのでしょうか。

「ほうせんか」：1978年のシングルA面『おもいで河』のB面の曲です。松山千春とともに恩人で
 ある竹田健二への追悼曲です。

「糸」：1992年、20枚目のアルバム『EAST ASIA』に収められた曲で、ドラマ『聖者の行進』の
 主題歌でした。また着想を得て映画も作られている名曲です。多くのアーティストがカバーもし
 ていますね。～人は仕合わせと呼びます～。深さを感じます。

「中央フリーウェイ」：1976年、4枚目のアルバム『14番目の月』に収められた曲です。
 これほどドライブミュージックで聞かれるご当地ソングはないでしょう。

「瞳を閉じて」：1974年、長崎県奈留島の女子高校生がラジオ番組に送った「自分たちの校歌を
 作って欲しい」というお便りに応えて、書き下ろされた曲です。

「卒業写真」：1975年の『COBALT HOUR』にセルフカバーとして収録されました。この曲の歌
 詞に登場する“あの人”とはユーミンが高校時代に通った美術教室の女性教師だったといひます。

(文責・久世 安俊)

この文章は70周年を迎えるにあたり、50周年の時に聞き書きしたものに加筆・訂正をしたものである。しばしおつきあいのほどを。

70年の合唱団の歴史とお世話になった方々や先生方との思い出を多少なりとも記録に残しておこうと思う。前代表である香月ハルカさんの話を核として、OGや創立当時をよく知る人、現団員の話などを盛り込んで構成した。この70年を駆け足ながら振り返ってみたい。なお先生等、団の身内にも敬称をそのまま使うのはいささか作法に反するが、お許し願いたい。



合唱王国・福岡の遺したもの

RKB女声合唱団はいかにして誕生したか、を語る前にまず当時の福岡の状況をかいつまんで記す。昭和20年代、戦後のまだ衣食住もままならなかった時代から歌い始めた人々がいた。福岡は関東、関西、東海などと並び合唱の基礎づくりに早くから取り組んでいる。合唱連盟の設立も戦後すぐだ。

それらを率いて合唱王国・福岡と云われる時代の礎を作ったのが、石丸寛、森脇憲三、そしてRKB女声合唱団の初代指揮者・米倉美枝の諸先生方である。

福岡師範学校（現在の福岡教育大学）で教鞭を取る傍ら、戦時中から合唱を指揮し、女声合唱曲も数多く遺した森脇憲三先生。石丸寛先生と交互に西部合唱コンクール優勝を果たし2人で全国大会でも2位、3位の好成績を残している。この時代、西部地区予選を勝ち残ることの方が全国大会より大変と云われていた。西部地区の優勝団体は必ずといっていいほど上位入賞し、福岡は「合唱王国」と称される。すごいのは一般団体だけではなかった。高校、大学とも何度も全国大会上位入賞を誇り、総合的に合唱の層が厚く、また磨かれていた。

なかでも第1回の合唱コンクールで福岡県立高女（現在の福岡中央高校）を率いて全国1位に輝いたのが米倉美枝先生。指導力では森脇、石丸両氏に引けを取らない実力の持ち主。その指導の厳しさは有名だが、素直で率直な面も持ち合わせて、こと音楽に対しては真摯であり貪欲だった。西南グリークラブを率いて頭角を表わし、フィルハーモニックソサイアティ（現在の福岡合唱協会）で全国に名を知られるようになった石丸寛先生に、当時教師であり、確固たる指導者でもあった米倉先生が「どうか私に指揮を教えてください」と願い出た話はあまりにも有名なエピソードだ。

昭和30年代前半までの合唱王国・福岡を牽引した3人はそれぞれRKB女声合唱団と深い関わりを持つことになる。

RKB女声合唱団、誕生

RKB女声合唱団の歴史を紐解くと、意外と知られていない事実突き当たる。実は最初は混声合唱団としてスタートしたこと、当時はRKB児童合唱団や劇団、オーケストラもあった！

当時ラジオ九州（現在のRKB）で音楽関係の仕事をしておられた石丸寛先生が、合唱団の創設を熱心に勧めてくださったことは、後年になってわかったことだ。混声合唱団の指導者として、白羽の矢が立ったのが米倉美枝先生。しかし、米倉先生はやはり女声合唱がやりたかったのだろう。

混声合唱団は結成から一年後に女声合唱団となり、今日に至る。だから女声としてスタートしたのは昭和29年8月ということになる。まだRKBが電気ビルにあった頃のことで。





しかし公式の記録は残っていない。これは当時
が団単位ではなく、個人とRKBとの契約であっ
たこと、当初15人くらいの小編成でもっぱら
ラジオの仕事が多かったことなどが挙げられる。
「RKB女声合唱団は合唱王国の産物」という香
月さんの言葉が、一番合唱団創設の理由を言い当
てている。当時米倉先生の下で厳しい練習に耐え
て全国大会で優勝するほどの実力をもった女学生
たちや、短大や音大を卒業した女性たちが続々と
現れる。

まだおかあさんコーラス等はなく、歌い続け
たい女性たちは大勢いた。

その中から選ばれた少数精鋭の実力者集団が
出来上がっていく。毎週ガリ版刷りの楽譜が
どっさり渡され、譜読みするとすぐ録音。初代
ピアニストの中野雅子さんは、米倉先生とは高女
時代からの旧知の間柄で棒をふる前から何を要求
されるか以心伝心だったという。

繊細で女声の美しさが際立つ歌い方。米倉先生
の要求は高く厳しいが抜群の音楽センスでそれを
造り上げていく強いカリスマ性を持っていた。

この米倉先生指導の時期がRKB女声合唱団の
最初の黄金期であったことは間違いない。ラジオ
のレギュラー番組のほか昭和37、38年には2年
連続して芸術祭ラジオ合唱部門で奨励賞を受賞。
昭和41年にはBBC国際アマチュアコーラス
コンテストに日本代表として参加(テープ審査)。
昭和38年に芸術祭で初演した組曲「美しい訣れの
朝」は、中田喜直さんの女声合唱曲の中でも傑作
の誉れが高く、今でもRKB女声合唱団を代表
する曲となっている。

合唱団の成長期

昭和40年代の高度経済成長期、合唱団も大きく
飛躍していった。オーディションには公開ホールが
埋まるほどの人数が集まり、スポンサーのついた冠
コンサートや、タレントを呼んだ大仕掛けの公演
なども開催されるようになっていく。

RKB合唱団の特色として、ステージがラジオや
テレビなど放送と直結していたことが挙げられる。
たとえば人気テレビ番組『家族そろって歌合戦』や
『どんたく前夜祭』のバックコーラス、石丸先生の
CMも流れたゴールドブレイドコンサート、山本
直純さんが指揮する『オーケストラがやってきた』
出演など、その活動はお茶の間にまでダイレクトに
伝わっていった。



悲しい訣れ

昭和50年代、合唱団は大変化の時期を迎える。
昭和50年に入院された米倉先生が52年に亡くなる。
この入院中の足掛け2年半は、香月さんを中心に自
主練習の日々。当時ラジオ制作でディレクターを務
められていた木村満さんは、もともと若き作曲家と
しても活躍されていた。合唱団のために数多くの曲
を作曲、あるいは編曲していただき音楽的にも支え
てくださった。団員たちは米倉先生の回復を信じ、
木村さんにアレンジしてもらった曲を練習して帰り
を待った。

米倉先生が亡くなった、その衝撃は回り知れなかつた。
合唱団をどうするか何度も話し合われた。
この時、合唱団の存続を強く働きかけてくださった
のがRKBの宮丸貞三さんである。「やめるのはいつ
でもできる。せっかくここまで育った合唱団を
無くすのは惜しい」という励ましなしにはその後の
RKB女声合唱団はあり得なかった。



RKB女声合唱団の歩み



←「いぬのおまわりさん」を指揮する大中恩先生。3回の演奏会に客演くださいました



多彩な指揮者に恵まれて

香月ハルカさんを代表に新体制がスタートする。今まで米倉先生中心だった団の運営も団員たちが担うことになる。後任の指揮者として、荒谷俊治先生が東京から毎月1回指導に通ってくださった。

昭和55年三浦宣明先生を常任指揮に迎える。実は米倉先生以降すべて男性指揮者だ。それまでの繊細な指揮とはまた違うダイナミックな動きや外国作品など新たなレパートリーが広がっていった。

多彩なゲスト客演指揮者にも恵まれた。何度も客演指揮を執ってくださった近藤安个先生をはじめ大中恩先生、田中信昭先生、青島広志先生、栗山文昭先生、そして一昨年前の演奏会では信長貴富先生など、日本を代表する第一線で活躍中の音楽家に直接指導を受ける機会を持ったことは、その後の合唱団の大きな財産となった。

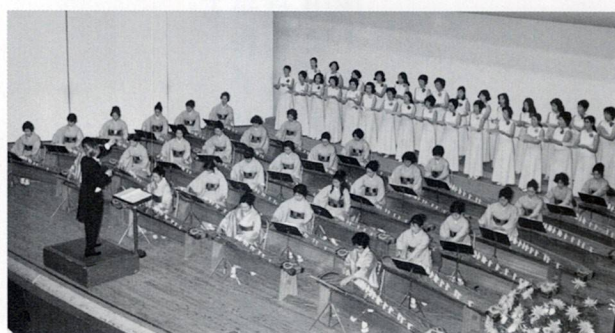
昭和50年代から60年代にかけて、これらの先生方の指導とともに、大きな舞台を経験することもできた。RKB創立30周年記念の"あなたがうたう第九"やゴールドブレンドコンサートなど枚挙に暇がない。また昭和56年には芸術祭ラジオ部門合唱曲の部に参加し、川崎洋作詞・野田暉行作曲の「有明の海」を初演した。

テレビのレギュラー番組

昭和63年4月に始まったテレビ番組「RKBコーラス仲間」は、土曜日朝の放送にも関わらず徐々に視聴率も上がり、平成5年3月まで、5年間も続いた。数多くの楽曲を短期間に覚えて歌う。初期のRKB合唱団の苦労を垣間見た思いだが、この苦労でレパートリーは大幅に増えた。荒谷俊治先生の司会で福岡地域の多くの合唱団にも出演いただき、合唱の楽しさがより多くの人々に広がったように感じた。平成11年にはかのドミンゴ、カレーラスやダイアナ・ロスとのスーパーコンサートもあり、思い出深い。



RKB女声合唱団の歩み



新しい世紀・新しい時代へ

前代表の香月さんが勇退された平成13年は奇しくも世紀が改まった年だ。この時も団の70年の中では大きな節目の一つとなった。45年余りのRKB毎日放送との準専属契約が打ち切られることになった。合唱団の自主運営の形でRKB女声の名称で活動を続けさせていただくこと、従来通りスタジオを練習場として使わせていただくことを願い出て、ようやく条件を受け入れていただくことが出来た。内野美保子さんを新代表として、パートのまとめ役だった者たちが主軸となり新総務を助け、今後も続けていく体制を話し合った。

その後アクロス福岡10周年記念ミュージックフェスティバルや第19回国民文化祭合唱・ふくおか2004合唱の祭典に参加、ソフトバンクホークスの試合での国歌斉唱など、地域の合唱団と共に出演させていただく機会も増えている。

また藤井凡大先生と縁の深かった福岡永楽会の箏曲演奏会や九州大学男声合唱団コーラアカデミー創立50周年演奏会への賛助出演など、長年のご交情も続けさせていただいている。

原田大志先生やそのあとの久世安俊先生の教え子である音楽科の学生のインターシップも受け入れ、将来学校で合唱指導も行う若き指揮者やピアニスト、歌手にも活動の場を提供しつつ実は合唱団の方が学ばせてもらっている。

50周年演奏会の後は「ねりんピックふくおか2005」へも参加した。いつの間にか、50年たった。今後も地域の合唱団とともに成長していけるよう、自分たちの合唱団を磨いていきたいと願っている。

あれから20年…まさかまだ在籍していて、書きこうとは夢にも思っていなかった。50周年後も合唱団は続き、映画「うた魂♪」試写会で合唱を披露したり、藤本流秀益枝会40周年記念公演への賛助出演では博多座の舞台にも立つなど様々な出演があった。

近年では災害地への募金活動やコロナ時の練習・演奏の困難、ウクライナ支援の演奏会にも参加したことなどが思い浮かぶ。この20年間に泉下を辿った先輩達も多い。そんな中でも団員も増えた昨今、災厄の多いこの時代に思い至った歌の大切さ、歌えることの有り難さを噛み締めながら、本日も歌いたいと思う。

監修・香月ハルカ 文・一柳由美子

メンバー紹介

ソプラノ

立石 智子
津山 初美
小林 玲子
石川 茉由子
池田 真由美
上原 尚子
鷺山 洋子
小谷 公子
山本 聰子
松岡 幸子
織部 祐里(休演)
柴富 伸子(休演)

メゾソプラノ

内野 美保子
河野 泰子
一柳 由美子
久原 幸枝
川野 公江
大浦 洋子
山坂 明美
中山 洋子
大隈 美由紀
菊竹 りえ
香月 ハルカ(OG)

アルト

小田 智子
武内 昌子
山本 美知子
北島 まり
熊野 富美代
秋枝 寿栄
深川 理恵子
上原 彩和
安波 礼子
八木 みどり
田崎 明日香
山本 育子

運営委員

顧問 香月ハルカ

代表・総務 内野美保子

会計 北島まり

Sパートリーダー

S庶務

MSパートリーダー

MS庶務

Aパートリーダー

A庶務

立石智子

池田真由美

大浦洋子

中山洋子

熊野富美代

深川理恵子

演奏会委員

総括・渉外 内野 美保子
会計 北島 まり
企画 立石 智子
衣装 大浦 洋子
会場 熊野 富美代
印刷 一柳 由美子
ステージマネージメント
野崎 昭一
監修 香月 ハルカ

演奏会協力 (Special Thanks) X

MC
撮影
スタッフ

太田 智子
柴田 夏樹
野崎 絵美
三浦 ひとみ 他

ご協力いただきました皆さまに
心から御礼申し上げます。

近年の歩み

RKB女声合唱団の近年の歩みはホームページからもご覧いただけます。

HP <http://rkb-f-chorus.com/>



また、70年の歩みにつきましては、別途年表にまとめています。
こちらより読み取ってご覧いただけます。



数多の先輩方に感謝を ♪

団員募集中

貴女も女声合唱をご一緒にいかがですか？

練習日 毎週火曜日 18:45~20:45

練習会場 RKB毎日放送会館T1スタジオほか

会費 3,000円/月

問合せ 090-7920-7125 (内野)

HP <http://rkb-f-chorus.com/>



70周年記念 38th RKB女声合唱団演奏会

公演のご盛会をお祈り申し上げます



七玉一ル君
@CHIKAKO TODO

令和6年度 一般社団法人西日本オペラ協会コンセル・ピエール 公演

J.シュトラウスⅡ作曲

オペレッタ

ことうもり

JOHANN STRAUSS Ⅱ

Die Fledermaus

全三幕/日本語上演 日本語字幕スーパー付

2025年 **2月14日** 金 [18:30開演/17:45開場] 福岡シンフォニーホール (アクロス福岡)

指揮：井崎正浩

演出：唐谷裕子

管弦楽：九州交響楽団

合唱：西日本オペラ協会合唱団

キャスト

アイゼンシュタイン…	福嶋 勲 (客演)	ファルケ博士…	久世安俊
ロザリンデ…	松竹玲奈	アデーレ…	林 麻耶
フランク…	又吉秀和 (客演)	スリント博士…	久保田敦志
オルロフスキー侯爵…	瀬山ゆり歌	イーダ…	柳瀬史子
アルフレード…	江越正嘉	フロッシュ…	石井宏明 (助演)

●チケット販売、開演時間など詳しくは 公式ホームページをご確認ください●

お問合せ

西日本オペラ協会事務局 ☎070-5272-2409 (担当:上田)

<https://www.nishinihonopera.jp/> (西日本オペラ協会) 公式ホームページ。公演のお知らせもあります。




イマ知りたい、
イマ伝えたい、
タダイマ!

本田奈也花

宮脇憲一

池尻和佳子



RKBテレビ 
[月~金] 3:40